

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月7日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520441

研究課題名（和文）ドイツ語・英語の無冠詞名詞の統語論的・意味論的対照研究

研究課題名（英文）Comparative Syntactic and Semantic Study of German and English Nouns without Articles

研究代表者

吉田 光演（YOSHIDA MITSUNOBU）

広島大学・大学院総合科学研究科・教授

研究者番号：90182790

研究成果の概要（和文）：本研究は、ドイツ語・英語に現れる無冠詞名詞句を、並列句、A=B のコピュラ文の叙述名詞、前置詞＋無冠詞名詞について考察した。無冠詞並列名詞句は、[分割性・複数]の素性を持ち、定・不定・総称解釈を持つこと、冠詞用法より経済的で、最適表示になりうることを示した。第二に、“Hans ist Komponist.”(ハンスは作曲家だ)のようなドイツ語コピュラ文における無冠詞名詞の特性（職業・国籍等の所属リスト）について、英語と比較した。さらに、英語・ドイツ語の副詞的前置詞＋無冠詞名詞（融合形）は、場所、制度的場所、目標、様態・手段に分類できる（at, in, on, to などの前置詞が使われ、ドイツ語では an, auf, in, zu が生じる）。また、場所（目標）や制度的場所を表す場合、対象（場所）の不定の存在が含意され、場所に付随して習慣的意味（社会活動等）が加わることを示した。

研究成果の概要（英文）：In this research, we investigated syntactic and semantic properties of bare singular nouns without articles in German and English, especially with respect to bare coordinate NPs, bare predicative nouns, and bare nouns in prepositional phrases. First, we argued that bare coordinate NPs involve the features [+division, +plural] so that they are interpreted as definite, indefinite, and generic arguments. Further, we pointed out that bare coordinate NPs, with an optimal representation, can be more economic than NPs with articles. Second, by contrasting with English, bare predicate nouns are used more frequently in German in copular sentences as in “Er ist Komponist.” (=He is a composer.) in contexts in which membership properties (nationalities, jobs etc.) are listed. In addition, we showed that in English and German, prepositions and bare nouns functioning as adjuncts are classified into locations, institutions, goals, manner and instruments. In these cases locative prepositions like at, in, on and to are used while in German an, auf, in and zu occur. When a PP with a bare noun denotes a place/goal or an institutional place (hospital, jail, etc.) the existence of a nonspecific object (place) is implied and habitual meanings are added.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：ドイツ語、英語、名詞、対照研究、冠詞、無冠詞、統語論、意味論

## 1. 研究開始当初の背景

英語・ドイツ語などゲルマン言語の冠詞と名詞についてはイエスペルセン (1924) など、従来から研究され、日本でも関口 (1962) の冠詞論を嚆矢として研究されてきた。これらの先行研究を踏まえて申請者は、総称名詞、類別詞、可算・不可算名詞、単数・複数について考察し、日本語・ドイツ語・英語の対照研究を行った。本研究は、その成果を無冠詞形の名詞句に応用したものである。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、(1) ドイツ語・英語の単数可算名詞句の無冠詞用法を構文ごとに分析し、両言語の可算無冠詞の共通性と相違を明らかにすること、(2) ドイツ語・英語の可算無冠詞の用法を、日本語と比較し、言語間の共通点と相違を明らかにすること、(3) これによって、冠詞の働きについて統語的・意味的・語用論的説明を与えること、この成果を応用して、冠詞についての直観が働きにくい日本語話者に対し、教授法の観点から英語やドイツ語の冠詞用法について効果的な学習法を提案することである。

## 3. 研究の方法

名詞は、指示対象の意味特性に基づいて、可算か (個体) 不可算か (質量名詞・抽象名詞・集合名詞) の特性をもつ。その典型的語彙特性が、総称文や述語名詞や前置詞補部など、特定の統語的・意味的・語用論的環境によって機能変化や揺れを起こす。問題は、その変化がどんなものか (可算から不可算へと意味変化するのか)、無冠詞形でなお定・不定の個体解釈が可能か、指示機能から述語機能へと変化する条件は何か、ドイツ語と英語の相違は何かを見出すことである。理想的に

は、統語基準 (項か非項か) や意味基準 (an apple/ apple [細かく切り刻んだ場合] のように、境界性のない対象として認知する場合、クラス解釈が働く) に基づくと想定できるが、実際には統語的にも意味的にも区別できない場合もある。具体的計画は次の通りである。

(1) ドイツ語、英語に現れる無冠詞の単数可算名詞用法、その統語的・意味的・語用論的特性はいかなるもので、いかなる相違があるか? これについて呼格、コピュラ文、述語名詞を手がかりに先行研究を整理し、先行研究の成果と問題をまとめ、仮説設定する。

(2) ドイツ語と英語を比較し、相違について考察する。主語位置等ではドイツ語の場合、可算無冠詞が多いように見えるのはなぜか? 逆に前置詞補部位置では、英語の可算無冠詞が多いように見えるのはなぜか? 分析結果を、日本語の名詞の観点から捉え返し、比較する。これにより、日本語の名詞句の統語論・意味論についても研究を深める。

(3) 成果を学会で発表し、論文として公表し、WEB 上でも公開する。

## 4. 研究成果

(1) ドイツ語・英語に現れる単数可算名詞の無冠詞用法の統語的・意味的特性について、“dog and cat” のような並列単数無冠詞名詞と、be/sein 動詞で結ばれるコピュラ文の述語名詞を手がかりに先行研究を分析し、問題を整理した。また、コーパスや Web データを利用して、無冠詞可算名詞に関するデータを収集・分析した。

(2) Heycock and Zamparelli (2003) では英語の無冠詞並列句は定名詞句とされるが、“I have known more men destroyed by the desire to have [wife and child].” のような不定解釈もある。このことから、無冠

詞並列名詞句は、[+division, +plural] (分割可能、複数性) 特性を持ち、物質名詞や複数名詞と同様に項の特性をもつこと、従って定・不定・総称の解釈をもつこと、無冠詞並列句は一定条件において冠詞用法よりも経済的で、最適表示をもつことを明らかにし、論文「ドイツ語・英語の無冠詞並列名詞句について」としてまとめた。

(3) ドイツ語統語論・意味論について、無冠詞名詞が現れる条件について分析した。特に、”Hans ist Komponist.” (ハンスは作曲家だ) のようなコピュラ文における無冠詞の述語名詞句の意味特性 (職業・国籍などの所属の絶対的尺度によるリスト化) によるゼロ冠詞について分析し、成果を学会等で発表した。

(4) 無冠詞可算名詞に関するドイツ語・英語データを分析し、付加部の前置詞・無冠詞名詞 (および融合形) は、空間場所、制度的場所、移動目標、様態・手段の意味に分類できることを示した (at, in, on, to などの前置詞が使われ、ドイツ語でも対応する an, auf, in, zu が多用)。空間意味 (移動目標) と制度的場所の意味を表す場合、対象 (場所) の不定の存在が含意され、さらに場所項に付随した習慣的・ステロタイプの意味が加わること、特に談話照応と関連しない不定意味があることを示し、論文としてまとめた。

(5) ドイツ語、英語に現れる無冠詞名詞用法の統語的・意味的・語用論的特性について、特に前置詞句に頻出する無冠詞用法と機能的に類似した弱定冠詞の用法との比較分析 (go to school, go to the hospital/ zur Schule gehen, zum Krankenhaus gehen) を行った。無冠詞で使われる名詞、定冠詞が付くが不定の意味しか表さない名詞、ドイツ語のように前置詞と定冠詞が融合する場合について、ドイツ語と英語の共通点と相違を分析

し、Carlson et al. (2005) 等の研究を検討し、タイプ (個々の事象から抽象化された典型タイプとしての場所や制度) とトークン (具体的指示対象としての不定の場所・制度等) に類似する区別を提案した。これらの成果を論文「ドイツ語の弱定名詞句 一定冠詞はどこまで「定」か？」としてまとめた。日本独文学会 2011 年秋季研究発表会でも同様の内容の発表を行った。2011 年 8 月には、ミュンヘン大学で行われたサマーアカデミーと国際ワークショップにおいて、関連する内容の発表を行い、ドイツ語統語論・意味論に関して研究を進めている (ミュンヘン大学、シュトゥットガルト大学等の) 海外の研究者と意見交流を行った。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 5 件)

①吉田 光演, ドイツ語の弱定名詞句 一定冠詞はどこまで「定」か? —, 欧米文化研究, 査読有, 18 号, 2011, 5-20.

②吉田 光演, ドイツ語のコピュラ文と名詞句のタイプ分類, ドイツ文学論集, 査読有, 43 号, 2010, 75-89.

③吉田 光演, ドイツ語・英語の前置詞句内名詞句の無冠詞形と融合形, 人間科学研究, 査読有, 5 号, 2010, 25-38.

④吉田 光演, ドイツ語・英語の無冠詞並列名詞句について, 欧米文化研究, 査読有, 16 号, 2009, 87-100.

⑤吉田 光演, 方法としてのコーパス? — 言語研究におけるデータの扱い, 日本独文学会研究叢書 (田中慎 編「コーパスをめぐって 一心理・知覚表現の分析」, 査読無, No.

67, 2009, 57-66.

[学会発表] (計5件)

①吉田光演, ドイツ語定冠詞の非指示的機能について, 日本独文学会 2011 年度秋季研究発表会, 2011 年 10 月 16 日, 金沢大学.

②Yoshida, Mitsunobu, Das Illokutionspotential von Deklarativsätzen im Japanischen, Japanisch-deutscher Workshop Linguistik -Grammatische Strukturen des Japanischen und Deutschen im Vergleich, 2011.08.16, LMU (München).

③Yoshida, Mitsunobu, Nominale Referenz in der artikellosen Sprache: NPen/DPen mit reichen Numeralklassifikatoren im Japanischen, Deutsch-Japanische Sommerakademie Linguistik, 2011.08.09, LMU (München).

④吉田 光演, sein コピュラ文の再考 — ドイツ語統語論と意味論の面白さ, 学習院大学大学院連続講演会 「ドイツ語研究の魅力を語る」, 2010 年 2 月 22 日, 学習院大学.

⑤吉田 光演, ドイツ語のコピュラ文と名詞句のタイプ, 日本独文学会中国四国支部研究発表会, 2009 年 11 月 21 日, 香川大学.

[その他]

ホームページ等

(広島大学個人 HP)

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/mituyos/>

(広島大学図書館リポジトリ)

<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/0003228>

3

<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/0003227>

9

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

吉田 光演 (YOSHIDA MITSUNOBU)

広島大学・大学院総合科学研究科・教授

研究者番号 : 90182790

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号 :

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号 :